



32病棟は、心療内科病棟です。非定型自閉症、広汎性発達障害(アスペルガー症候群や高機能自閉症など)、ADHD(注意欠陥多動性障害)、被虐待児症候群、反応性愛着障害、解離性障害などの6歳~15歳までの子どもが入院しています。医師・看護師・心理士・保育士・保健師・医療ソーシャルワーカー等、様々な職種が退院後を見据えた医療・看護を行っています。病棟では、子ども達のストレス軽減や発達援助を目的とした企画を行っています。その中で「セラピードッグ」は、楽しい企画の一つです。子ども達は、「優しい気持ちになる」「嬉しい」「犬にも気持ちがあるんだ」「いのちは温かい」等、セラピードッグと接することで、大切なことを学ばせて頂いています。効果としては、暴力件数を毎日調査していますが、セラピードッグのあった日は、暴力件数が劇的に少なくなっていることが分っています。



セラピードッグにきてくれているワンちゃん達です♪

医療連携室 (患者様をご紹介いただく医療機関の皆様へ)

当センターの医療連携室は、地域の医療機関の皆様との円滑な連携に努め、患者様に専門的な医療を提供しております。ご利用には「登録医としての登録」と登録医からの「診療申込み」が必要となります。当センターの医療連携室を是非ご利用ください。

TEL.0562-43-0508 FAX.0562-43-0510 URL:http://www.achmc.pref.aichi.jp/index.html

受付 火曜日~土曜日

時間 9:00~17:00

祝日、年末年始を除く。土曜日が祝日の場合も受付、ただし、月曜日が祝日の場合は火曜日を除く。

外来診療のご案内

- 詳細については、ホームページ等でお確かめください。
●当センターの受診は、紹介予約制です。お電話にてご予約ください。

予約電話番号 0562-43-0509 ファクシミリ 0562-43-0510 (9:00~17:00まで)

診療時間 午前9時から午前12時まで / 午後1時から午後4時まで

休診日 日曜日・月曜日・祝日・年末年始
ただし、月曜日が祝日の場合は火曜日は休診日、土曜日が祝日の場合は診療日

あいち小児保健医療総合センター

〒474-8710 大府市森岡町七丁目426番地
TEL(0562)43-0500 FAX(0562)43-0513 URL:http://www.achmc.pref.aichi.jp/index.html



アチエメックの風

あいち小児保健医療総合センターだより



第44号

平成27年夏発行

発行
あいち小児保健医療総合センター

センター長、副センター長新任のごあいさつ

あいち小児保健医療総合センターセンター長 服部 義

~センター長に就任して~



4月からセンター長を拝命いたしました服部 義(ただし)です。私は当センターには平成15年4月外科系各科が新設された第二期オープンの際に整形外科部長として赴任いたしました。当時の長嶋名誉センター長の、子どもと家族に優しい療養環境を整備して、どこにもない日本一のこども病院を作りたいという強い熱意に胸が躍ったことを今でも覚えています。その後歴代センター長の温かい見守りのもと、臨床に集中させていただけたことは大変ありがたいことでした。昨冬突然のセンター長就任の打診があり、病院経営に疎い私にとってハードルが高く、固辞しましたが、前田前センター長が顧問

として助けていただけると、また赴任して12年さまざまなことを学んだ愛着ある小児センターに少しでも恩返しをしたいと思ったことから、受けさせていただくことにしました。至らない点は多々あるかと思いますがどうかよろしくお願いいたします。

さて当センターを取り巻く環境は大きく変わろうとしています。来年2月には電子カルテの導入と同時に、現在建築中の新救急棟が新たに開棟を迎えます。その後周産期センターの開設、心療科のコーナーへの移転など越えなければならない大きな山がいくつも控えています。職員一丸となり、目の前にある山を一つ一つ越えていきたいと思っております。今後とも小児センターを温かい目で見守っていただくことをお願いできれば幸いです。

副センター長 伊藤 浩明



今年度から、副センター長兼総合診療科部長を拝命しました。主として PICU の開設と電子カルテの導入を担当します。テレビドラマに出てくるような、力強く格好いい救急科・集中治療科スタッフが集まって、すでに活動を開始しています。自分の役割は、彼らが思う存分力を発揮できる環境づくりです。

なお、アレルギー科は優秀な若手スタッフがしっかり支えていますので、ご心配いりません。これまで同様よろしくお願いいたします。

山崎副センター長 山崎 嘉久



当センターは平成13年度にオープンして以来、毎年新しいスタッフを迎えてきましたが、今年度は特に新しい雰囲気にも包まれています。副センター長として服部センター長を補佐し、直前に迫った課題の解決に努めるとともに、少し先の子どもの未来について大いに語り合いたいと思います。また、保健センター長として、これまでの保健機関や福祉機関との連携をさらに強化し、医療連携の円滑化に力を尽くしたいと思います。今後ともご指導、ご協力をお願い申し上げます。